

だっしゅ!

2013年9月30日発行 第6号
発行・編集 日高地方本部青年部
様似町職 釣 亮 典

第30回自治労北海道青年部夏期交流集会

2013年8月30日～9月1日の3日間に渡り、美瑛町の国立大雪青少年交流の家で第30回自治労北海道青年部夏期交流集会在開催され、日高地本からは7単組35名の仲間集結。集会運営本部、開催地本・単組、参加者の皆様、大変お疲れさまでした。それでは、夏期交の3日間でどんなことをしていたかザックリ紹介します！

◎8月30日(1日目)

1日目は集合日となっており、会場の美瑛町国立大雪青少年交流の家に集合し、開会集会と文化交流を行いました。

文化交流とは「構成詩」や「うたごえ」で単組や地本が取り組んできた特徴的な運動を全体に伝える取り組みです。

「構成詩」は、実際の取り組みを演劇形式で分かりやすく伝える方法、「うたごえ」は、仲間の率直な思いを歌に乗せて届ける方法です。今回の文化交流では、十勝地本、上川地本、石狩地本の3地本より「構成詩」がありました。

職場実態や不安・悩みを、世間の常識に流されることなく自由に意思表示する仲間の精一杯の頑張る姿に会場の心は一つにまとまった気がしました。



◎8月31日(2日目)

2名の講師を迎えての基調講演からスタート

一人目は月間労働組合編集長松上氏より「検証・アベノミクスとアベノカイケン」と題し、現政権の経済情勢と憲法改正による「戦争のできる国づくり」に対する編集長ならではの鋭い切り口による講演内容でした。

二人目は自治労中央本部青年部長佐々木氏より「青年の主体的な行動を」を題し、私たちを取り巻く政治・経済状況から職場環境、反戦・平和について幅広く、アツク講演頂きました。

基調講演の後には、本集会のメインイベントである職種別分散会のスタートです。





5時間半という長時間に渡る分散会でしたが、同職種の間との議論を通じ、同じ「悩み・共感」できる部分違う「考え」などのたくさんの「気づき」を発見。

この分散会で多くの「気づき」を自分たちの単組で、議論し、行動・実践していくことがこの夏期交の真の目的ではないでしょうか？

長い分散会の後は1日の癒し、交流会がありました。交流会は全体交流と地本別交流と別れての交流会でしたが、大いに盛り上がった交流会だったと思います。

◎9月1日(3日目)

3日目は、前日の分散会報告から始まりました。報告会では、我が日高地本より新ひだか町職竹内さんが報告しています。

職場での慢性的な人員不足・時間外勤務の恒常的現状等改めて仲間の現状を理解し共有できたと思います。



分散会報告後は平和の旅報告。

岩見沢市職の高尾さんの「平和運動は知る事、伝える事から始まる」と言う言葉は非常に印象深く、共感できた部分でもあります。

網走市職の最乗さんは、まるで司会芸人？ 噺家？の様な卓越された話術で会場全体の心を掴んだ。

ニュースや新聞で報じられる事のない沖縄の米軍問題や基地、雇用の実態等について知ることができました。

交流だって大切なのです♪ (大事なことなので2回言いました)



編集後記

発行が遅くなってしまい申し訳ありません。

夏期交の前日に23回目の誕生日を迎え、あっという間に過ぎてしまった1年だと感じました。

1年が長いと思っていた頃が僕にもあったなあ、しみじみ感じる今日この頃・・・

様似町職 つり りょうすけ